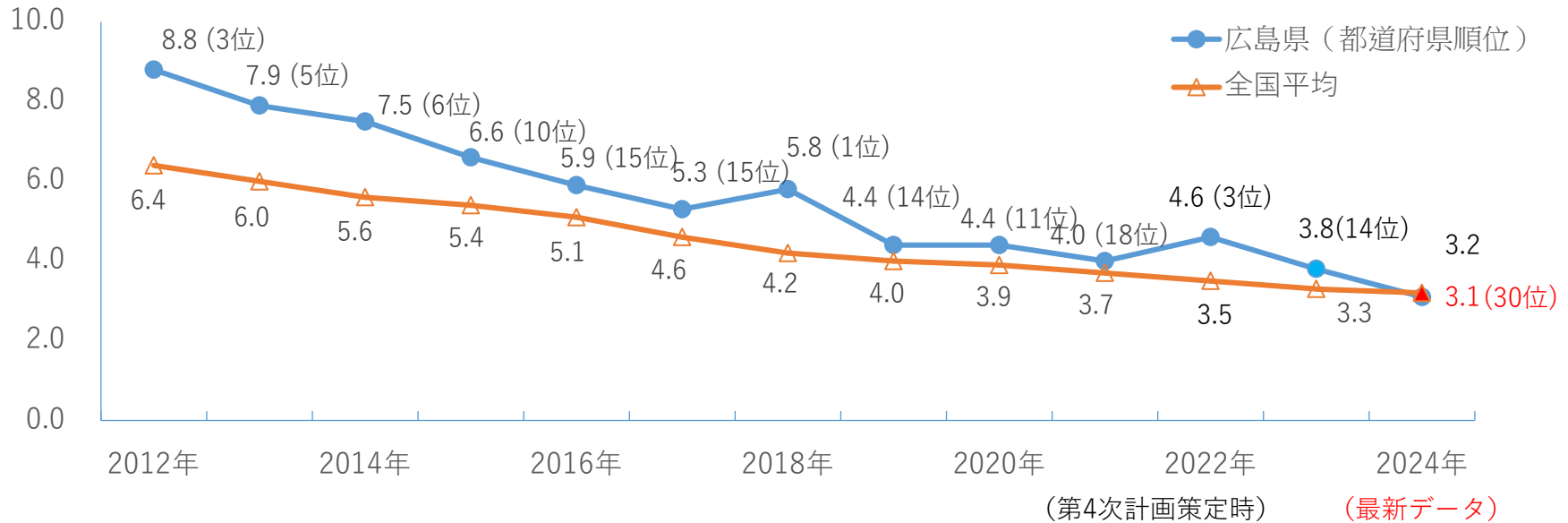


第4次広島県肝炎対策計画の進捗状況について

資料 1

計画を着実に実行し、成果を上げるため、「注視する指標」及び「モニター項目」をもとに、進捗状況について評価を行った。評価の結果、現時点で直ちに計画を見直す必要性は認められず、引き続き、目指す姿の実現に向け取組を加速させていく。

注視する指標	目標値	計画策定時	実績	達成見込
【全体目標】 肝がんによる75歳未満年齢調整死亡率	[R8] 全国平均以下	[R2] 4.4 (全国平均3.9)	[R6] 3.1 (全国平均3.2)	達成



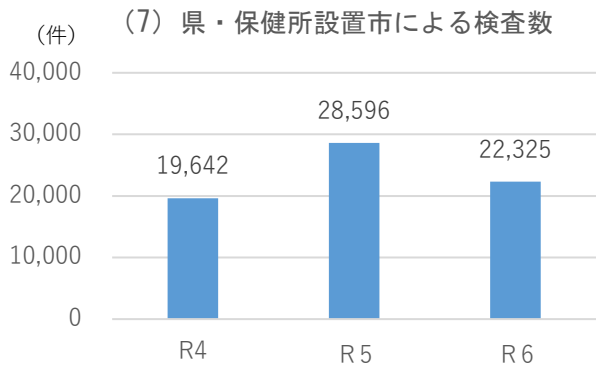
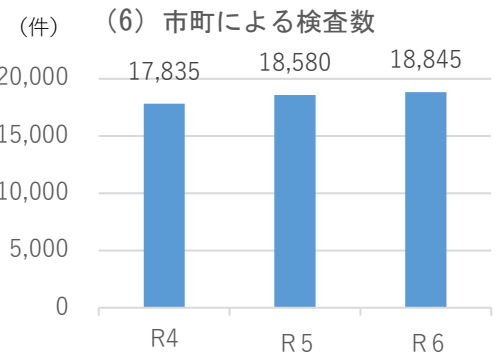
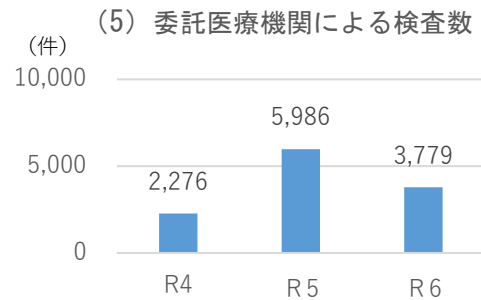
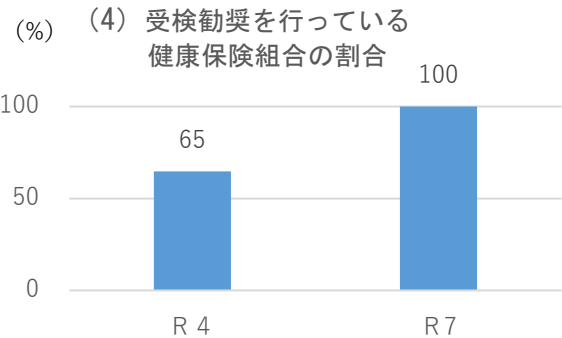
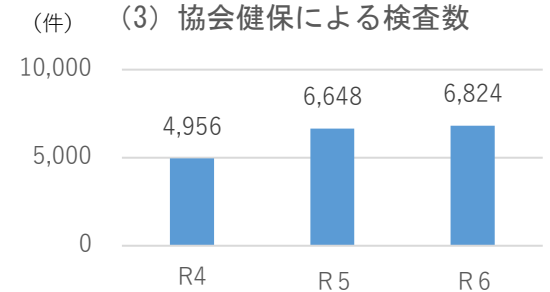
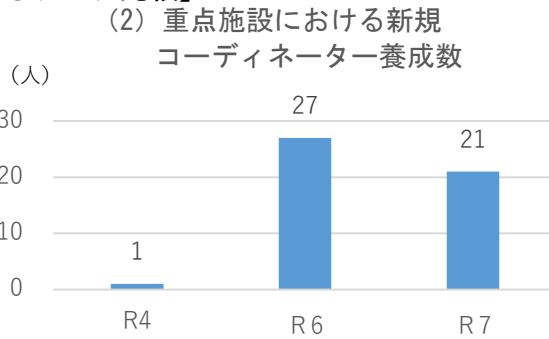
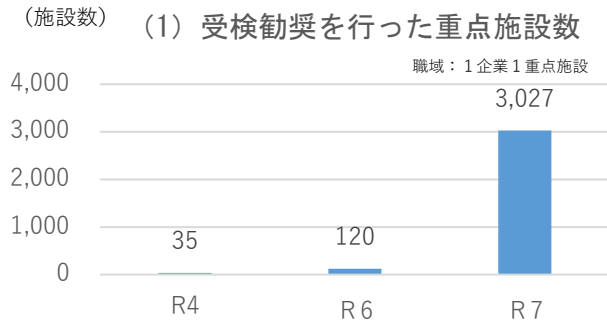
【評価】

これまでで最も低い値となっており、令和6年は目標値の「全国平均以下」を達成し、順調に減少している。引き続き、計画に掲げる取組を着実に遂行していく必要がある。

注視する指標	目標値	計画策定時	前回	実績	達成見込
【早期発見】 肝炎ウイルス検査を受けたことがある者の割合（県民アンケート）	[R8] B型：70% C型：60%	[R4] B型：57.6% C型：46.8%	[R6] B型：56.3% C型：48.0%	[R7] B型：47.7% C型：41.2% 注) 非認識受検含む	努力を要する

【注視する指標に関連するモニター項目におけるデータ比較】

R7：R7.12末現在



【評価】

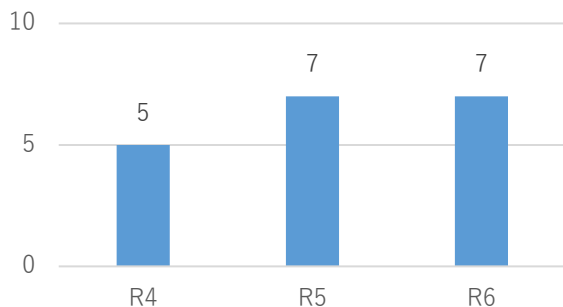
- 県民アンケートの結果、肝炎ウイルス検査を受けたことがあると回答した者の割合はB型、C型ともに低下した。
- これまでの調査によると、肝炎ウイルス検査を受検していない理由の多くが、検査の利便性の低さに関するものであり、肝炎ウイルス検査の受検者数を増加させるため、重点施設である職域や高齢者施設における受検勧奨に取り組むとともに、各検査実施施設での検査結果に係る周知の強化も検討する必要がある。
- 肝炎ウイルスの受検率については、「（参考資料1）広島県における肝炎ウイルス検査受検検査率（厚生労働科学研究費 肝炎等克服政策研究事業）」によると本県における検査受検率は、非認識受検者を含めB型87.4%、C型74.4%となっているという調査結果もあることから、肝炎ウイルス検査の受検状況を把握する指標として、より適切な指標の設定についての検討を行う。

注視する指標	目標値	計画策定時	前回	実績	達成見込
【早期発見・早期の治療介入】 治療導入時から肝硬変と診断される者の割合	[R8] B型：15% C型：20%	[R2] B型：17.0% C型：22.4%	[R6] B型：23.7% C型：26.4%	[R7] B型：25.5% C型：17.5%	努力を要する

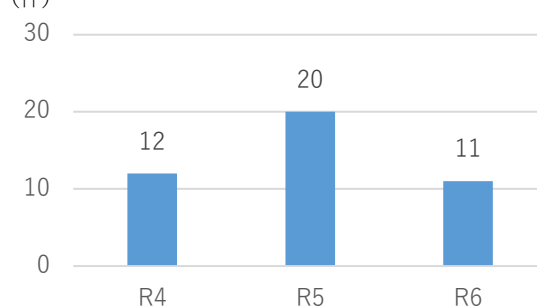
【注視する指標に関連するモニター項目におけるデータ比較】

R7：R7.12末現在

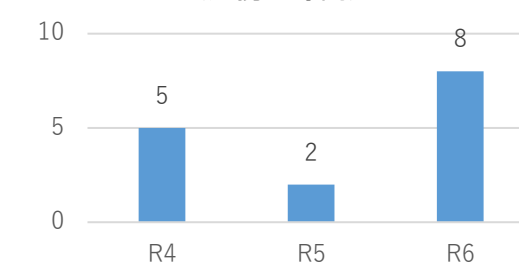
(件) (8) コーディネーター活動発表数



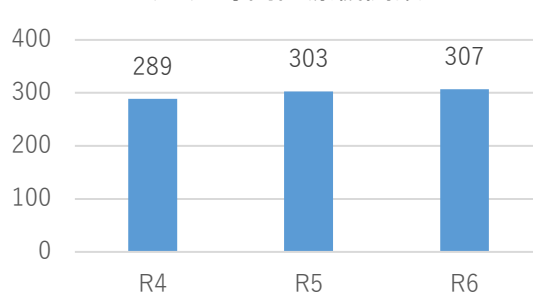
(件) (9) 初回精密検査助成件数



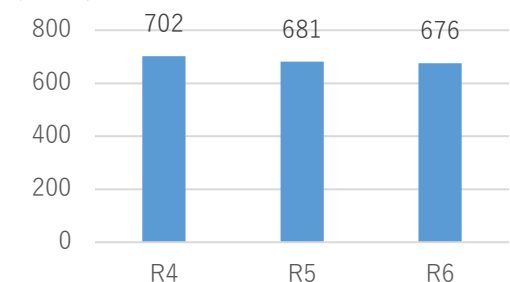
(件) (10) 県紹介様式利用数
(連携→専門)



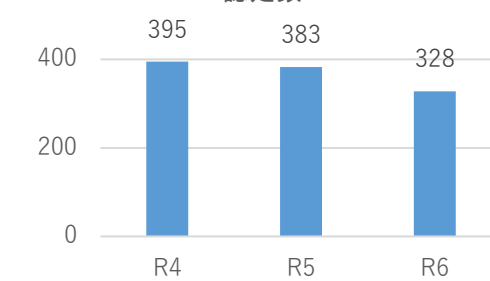
(件) (11) 専門医療機関数



(施設数) (12) 連携医療機関数



(件) (13) 新規肝炎治療受給者証
認定数

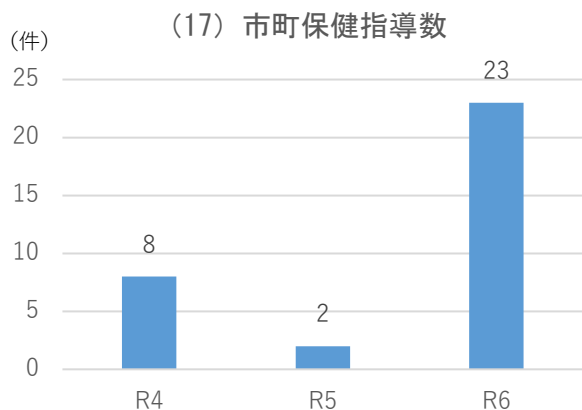
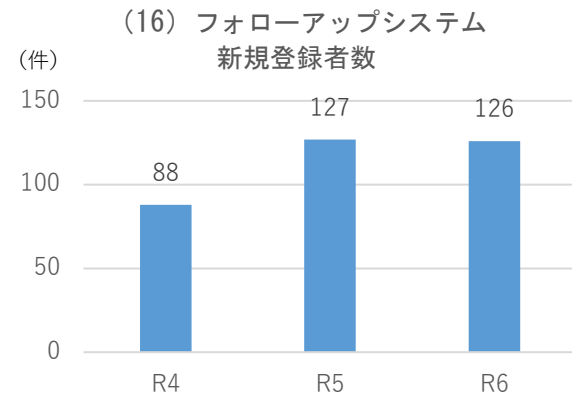
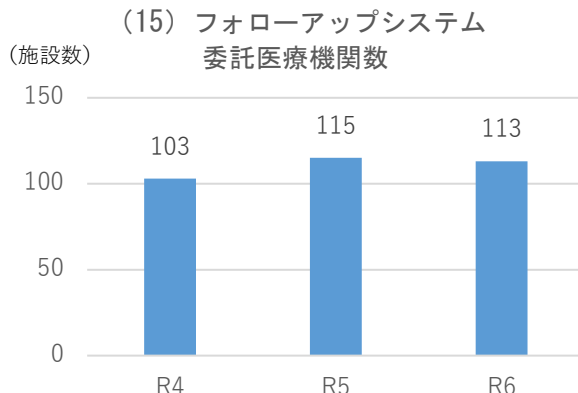
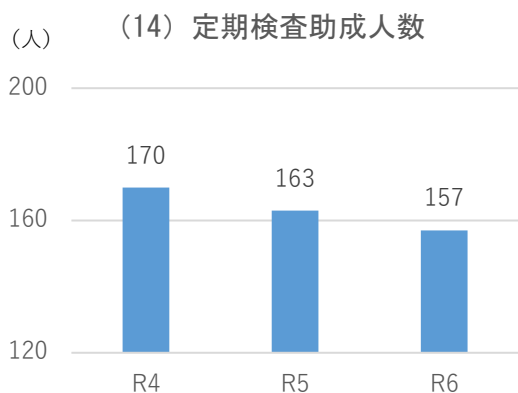


【評価】

- 治療導入時から肝硬変と診断される者の割合はB型については、令和4年度まで減少したものの、令和5年度からは増加するとともに、C型については、年度により増減がある。（参照：データ集P9）
- 令和6年度に肝硬変と診断された者のうち、6割以上は高齢者となっている。
（参考）年齢調整後の肝硬変と診断される者の交付人数は、B型、C型ともに令和2年度と比較して、令和6年度は減少している（令和2年度：39人、令和6年度：28人）。令和2年度、令和6年度について、それぞれの交付数における60代以上の割合は、令和2年度と比較し、令和6年度は増加している（令和2年度：47.9%、令和6年度：60.7%）
- 潜在するキャリアは、手術前検査などの副次的な検査で発見される場合が多く、自覚症状が乏しいことと相まって、陽性結果を主体的に捉えず、受診行動を起こしにくいと考えられる。
- より早期に専門医療機関における受診を進めるため、手術前検査などの副次的な検査で発見された陽性者に対して、検査を行った医療機関の協力を得て、県独自紹介様式の活用などにより、専門医療機関への受診勧奨を強化する。

注視する指標	目標値	計画策定時	前回	実績	達成見込
【早期の治療介入】 定期受診により病態進行の有無を確認する者の割合	[R8] B型：40%	[R2] B型：28.8%	[R5] B型：35.2%	[R6] B型：37.9%	順調

【注視する指標に関連するモニター項目におけるデータ比較】



【評価】

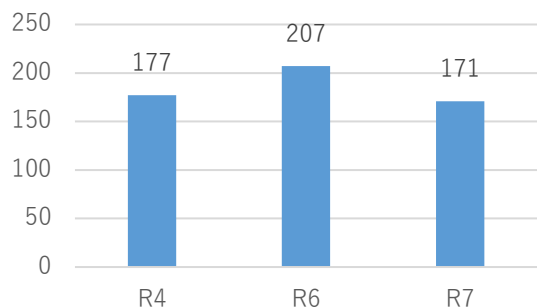
- 定期受診により病態の進行を確認している者の割合は増加傾向にある。
- モニター項目では、(15)フォローアップシステム委託医療機関数及び(17)市町からの保健指導数が増加した。
- 定期受診が行われていない者に対し、市町や医療機関等の関係機関と連携し、定期受診の勧奨を行っていく。

注視する指標	目標値	計画策定時	前回	実績	達成見込
【普及啓発】 肝炎ウイルスに関する正しい知識の認知度（県民アンケート）	[R9] 一般：60% 偏見差別：50%	[R4] 一般：40.6% 偏見差別：29.4%	[R6] 一般：39.3% 偏見差別：32.4%	[R7] 一般：35.3% 偏見差別：31.6%	努力を要する

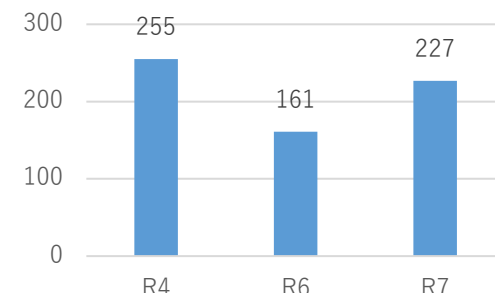
【注視する指標に関連するモニター項目におけるデータ比較】

R7：R7.12末現在

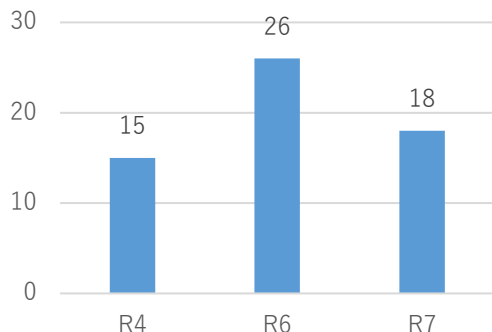
(人) (18) コーディネーター新規養成数



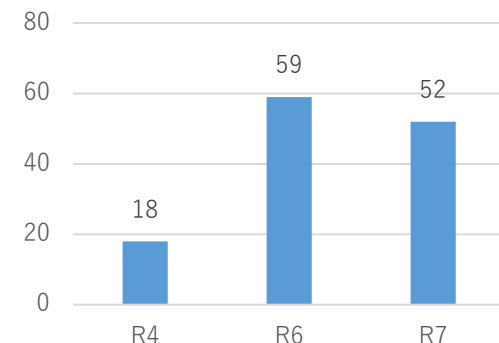
(人) (19) コーディネーター継続研修受講数



(件) (20) 講義実施件数



(件) (21) 普及啓発活動数



【評価】

- 正しい知識の認知度は、前回より低下し、目標との乖離が大きくなった。
- 参考資料2によると、自治体による広報活動の認知度はいずれも数%～1割程度と低い結果となっている。
- こうした状況を踏まえて、広報の専門家などのアドバイスを受け、これまでの普及啓発活動の振り返りを行うとともに、より効果的な広報を検討する。